

特集◆◆◆◆「海技の伝承」 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆⑥ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「生存指導書」でのポイント

「生存指導書」の冒頭

「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

「必ず救助される機会を得られる。この希望を捨ててはならない。もし今日救われなくとも明日救われる望みがある。食物や飲み水が少ししかない。雨風にさらされたままの救命艇に乗って一カ月以上も漂流し、しかも、助かった例は多い。今私たちの乗っている救命艇にしる、膨張式救命いかだ（ゴムボート）にしる、カバーがついているではないか。太陽に照りつけられ雨風にさらされる心配はなく、すぐれた食物、飲み水もある。陸からの救助の手配は整っている。近くに多くの船が、海上保安庁の巡視船が、そしてまた航空機が探しているからきっと私たちを発見し救助する。」と「生存指導書」には記述されており、遭難者を激励している。

リーダー

リーダーを選んでリーダーのもとに全員が統一ある行動をとろう。まず、乗艇した人たちの中から、艇内をとりまとめていくべき人を、リーダーとして選出しよう。リーダーは、乗艇者全員にリーダーたることを宣言し、乗艇者はリーダーのもとに一致団結してこの困難な航海をなし遂げることを誓う。

リーダーの自信のある言行と艇員の服従によってかもしだされる艇内秩序の維持と道義の確立こそが、これから始まる航海中に起こってくる一切の困難を克服して救助に導くものだ。リーダーは、すべての事柄について最終的権限を持つことを認識するとともに、各艇員の言い分を十分に聞く機会を作り、事の善悪を周知させることが必要である。事が起こった場合、艇員が事前に知らされており、それに対して準備をしているとき、命令は受け入れられやすいものである。

リーダーは、全員に役割を決めて仕事をあたえよう。担当役割の一例として次のようなものがある。

- ▼救急係（応急治療）
- ▼糧食係（食糧及び飲料水の管理と分配）
- ▼工作係（救命艇またはゴムボートの保守と修理）
- ▼信号係（救難信号用具の管理と使用）
- ▼記録係（日時の計測、そのほかの記録）
- ▼漁労係（魚や鳥の捕獲）

このほか全員が交代で行なう見張当直がある。

また航海の担当としてもし必要ならば、リーダーのほかに航海に関する係をおくのもよい。